

地域や世代を超えたつながり

市と大木町との交流

7月9日、大木町から^{ひろまつえいじ}広松栄治町長、副町長、教育長らが市役所を訪れ、これまでの交流の振り返りや今後の連携のあり方について^{いのうえ}井上市長と意見交換を行いました。

市と大木町の交流は、平成17年のダンボールコンポスト事業をきっかけに、市内の家庭で作った堆肥を大木町の田んぼで活用し、もち米を育てる「OKプロジェクト」へと発展。市内小学生の農業宿泊体験なども行われました。

また、プロジェクト終了後も、各自治会や地域団体が大木町の農家などと主体的に関係を築き、イベントで大木町特産品のマルシェを開くなど、地域や世代を超えたつながりが生まれています。

広松町長は「農業と地域コミュニティの関係性が重要。春日市の協働のまちづくりの取り組みを参考にしたい」と述べ、井上市長は「大木町からの多大なる支援に敬意を表するとともに、交流の深化と発展のため、今後も良好な関係を大切にしたい」と期待を述べました。



▲握手を交わす広松町長(右)と市長



▲春日市から参加した皆さんが大木町のブロッコリー畑で収穫体験

思い切り飛ばそう

折り紙ヒコーキ大会^{イン}春日開催



▲勢いよく飛ばす参加者たち

7月19日、市総合スポーツセンターで同大会(親子交流大会)が開催され、104人が参加しました。

幼児、小学生、一般の部に分かれて、それぞれが折り方や飛ばし方を工夫しながら、飛行距離と飛行時間を競争。小学生・飛行時間の部で7秒63を記録し優勝した久間木夏樹さん(春日南小2年)は「ぐるぐる回転するように工夫して飛ばしました」とうれしそうに話しました。

(一社)筑紫地区建設コンサルタンツ協会

くれよんクラブに療育訓練用おもちゃを寄贈



▲感謝を込めて、メダルをプレゼント

7月16日、筑紫地区で測量・調査・設計業を営む会員からなる同協会から、地域貢献の一環として、療育訓練施設くれよんクラブにジャンピングシェイプなどが寄贈されました。飛び跳ねたり、バランスをとったり、楽しみながらトレーニングができるものです。

子どもたちは、お礼として同クラブの歌を披露し、メダルと色紙を手渡しました。



水の大切さについて考えよう

福岡都市圏「水」キャンペーン街頭啓発



▲西鉄春日原駅前での街頭啓発

水の週間(8月1～7日)に合わせ、8月1日、西鉄春日原駅とJR春日駅で、市長や市職員が、水事情の周知や節水意識の向上などを目的として街頭啓発を実施しました。

福岡都市圏(春日市を含む17市町)は、水道用水の約3割を筑後川の水で賄っていることから、筑後川が注ぐ有明海で育った「福岡有明のり」を配布し、水の大切さや節水を呼び掛けました。

牛頸川の自然を守る

3地区自治会合同で清掃活動



▲川沿いの遊歩道を丁寧に清掃

7月21日、春日、惣利、平田台地区自治会合同で、牛頸川周辺の清掃活動が行われました。さまざまな生きものが生息する牛頸川の自然環境を守ることを目的に、毎年海の日に実施されています。

地域の住民や団体など、子どもから大人までおよそ450人が参加。遊歩道のごみ拾いや草取りなどに汗を流しました。清掃後は子どもたちの魚とり大会が行われ、夏ならではの行事を楽しみました。

戦後80年

平和への思いをつなぐ

7月15日、平和記念公園(広島市)にある「原爆の子の像」のモデルとなった佐々木禎子さんの実兄である佐々木雅弘さんが市役所を訪問。禎子さんの折り鶴を再現した金属製の折り鶴などを井上市長に手渡しました。この折り鶴は、アメリカのオバマ元大統領などにも寄贈されたもの。7月19日に春日原地区自治会主催で雅弘さんの平和講演会が行われる縁で、市への寄贈が実現しました。

また、同地区自治会から市内小中学校と市民図書館へ、雅弘さんの著書『禎子の千羽鶴』が寄贈されました。

市は、7月23～26日にふれあい文化センターで平和祈念展を開催し、原爆被災パネル展示と併せて、寄贈された折り鶴を展示しました。

7月24日には平和の語り部を実施。日本原水爆被爆者団体協議会のノーベル平和賞授賞式に同行した吉川 徹さん(NPO法人筑紫原爆被害者の会理事長)が、「平和への思いを風化させず、次世代へ引き継いでいきたい」と語りました。



▲左から佐々木さん、市長、大東春日原地区自治会長、扇教育長



▲平和への思いを語る吉川理事長